

＜対策のポイント＞

野生動物へのアフリカ豚熱の侵入は、畜産業のみならず、ジビエ等の地域産業に甚大な影響をもたらすため、野生動物間での家畜疾病の感染予防及びまん延防止の対策の実施に必要な人材の育成・強化及び発生時の初動防疫体制の構築に取り組むとともに、登山等による入山者とのリスクコミュニケーションを推進します。

＜事業目標＞

- ①野生動物を対象とした防疫体制の整備の推進 ②発生時の初動対応のための資材備蓄 ③一般の入山者における野生動物対策の理解醸成の推進

＜事業の内容＞

＜事業イメージ＞

1. 野生動物を対象とした家畜疾病対策の人材の育成・強化 15百万円

- ① 野生動物の生息域における防疫体制の向上を図るため、地域の狩猟者や森林作業者などの山林関係者と家畜衛生関係者との連携体制を構築する取組を支援します。
- ② 交差汚染防止技術や野生動物の死体の適切な処理（埋置、焼却、発酵消毒）等の実地演習の実施により、野生動物を対象とした防疫対策に資する人材の育成・強化を図る取組を支援します。

2. 発生時の初動対応のための資材備蓄 20百万円

発生時の初動対応に備えて必要な資材を地方ごとに備蓄し、緊急時に使用します。

3. 情報発信の強化 31百万円

野生動物だけでなく、人やモノを介したウイルスの運搬による野生動物間の感染の予防及びまん延防止のため、登山等の一般の入山者への情報発信を強化し、リスクコミュニケーションを推進します。

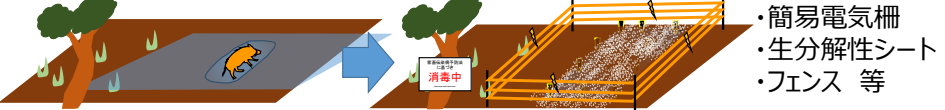
1の事業

- 狩猟者や森林作業者等との連携を図るための組織の構築。
- 各地域で適切な死体の処理が行えるよう実地演習を実施。



2の事業

- イノシシの防疫作業では、家畜の防疫作業では使用しない特殊な資材が必要。緊急時に備え、これら特殊な防疫資材の備蓄を地方ごとに行う。



3の事業

- 野生動物対策が実効あるものとなるよう、一般市民を対象としたプロモーションやリスクコミュニケーションを実施。



＜事業の流れ＞

